

プレス発表資料



令和7年2月20日
秋田大学

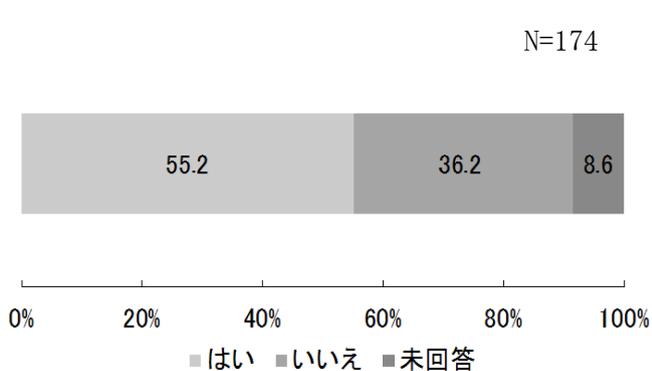
秋田大学が農業従事者を対象にした心の健康に関わる実態調査報告書の結果をまとめました

秋田大学（学長：南谷 佳弘）は、農業従事者を対象にした心の健康に関わる実態調査を行いました。これは農業従事者の心の健康に関わる実態と自殺対策に関わる資料作成を行うための基礎資料とするために実施しました。本調査は、秋田県の地域自殺対策強化事業費補助金の支援を受けた取組の一環として、秋田大学自殺予防総合研究センターが実施しました。調査結果をまとめましたので、公表いたします。

【調査概要】

調査対象 : 秋田県のA市に在住する農業従事者550人（有効回答174人）
主な調査内容 : 自殺リスクが高い人への対応経験、ゲートキーパーに必要なスキル
調査方法 : 無記名自記式質問紙調査
調査時期 : 2024年11月～2025年1月末日

【調査結果のポイント】



（報告書から抜粋）

P9 図8 ゲートキーパーになることが負担になると思うか

60歳以上と比較して、40-59歳の人がこの1年間に自殺念慮を抱きやすいことが明らかになりました。問題飲酒の疑いは約3人に1人存在し、メンタルヘルス不調を抱いた際には、家族や友人に話しやすい傾向がありました。

ゲートキーパーの認知度は秋田県の調査より高いものの、ゲートキーパーになることに負担を感じる人が多く、養成講座を受講したい人が少ないことが明らかになりました。

調査・分析の結果は、秋田県と共有し、今後の効果的な支援策を検討するために活用します。

秋田大学自殺予防総合研究センターでは、秋田県の自殺者数減少を目指して、今後も各種調査研究・取組の実施を計画しています。

【調査に関する問合せ先】

秋田大学 自殺予防総合研究センター 特任助教 宮本 翔平

電話：018-801-7041

研究者情報：https://akitauiinfo.akita-u.ac.jp/html/100001280_ja.html